
そして、君は空になった

✱ 雫 美優 ✱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そして、君は空になった

【Nコード】

N2947B

【作者名】

±零 美優±

【あらすじ】

美優は普通の高校生。あるとき美優はレイプされたのです。その時助けてくれた勇をどんどん好きになっていく美優ですが…

第一章 最悪のクリスマス（前書き）

こんにちは！ 美優です！ まだまだ全然小説についてわからない
美優ですが、どうぞあたたかく見守ってください！

第一章 最悪のクリスマス

第一章

「最悪のクリスマス」

「ありえない！」

私、椎野 美優「シイノ・ミュ」は大声でさげんだ。友人の森田美紀「モリタ・ミキ」は、アタシとのクリパをすっぱかして、彼氏といちゃつきやがって！

そのうえ終電には間に合わないしー！

しょうがなく駅の椅子にすわりこんだ。
もう！

ケータイをいじっていると、うしろから知らない男がいきなり抱き着いてきた。

「いやっ！なにすんのよ！どいて！！」
すると、

「どかないよぉー一緒にあそぼうー！」
とニタアと笑った。

「いやだ！どかないと、警察よぶから！」
すると、

「いいのかなぁーそんなに強がっちゃってー」

男はナイフをだした。「や、やめてよ！私を殺すの？」

「女の子って、いざとなると急に声かえて優しくなるんだよねー」

「お願い、帰らせて？」

「お願いするときはもつとさー敬語つかいなよ…」

「お願いします。」

「いいよ…」

よかった。

「でも、ね、俺とやったらね？」

「え…いやだよ…やめてっ」

「ごめんねえゝいたくしないからさ。」

「いやだよ！誰か助けて！」

「大声だすと殺すのぞ！」

いやだよ…

思いど通りにされるなんて。

「いい子だねえゝじゃあ服ぬがすよ？」

私は首を横にふった。「なに？自分で脱ぎたいの？」

「ちがいます…」

「だったらはやく！」

そういつて男はナイフであたしの服をきった。

「かわいい下着きやがって」

そういつてパンツもぬがされ、あたしはすっぱんぽんだった。

男は自分のものを美優にいれて、腰をふっていた。

「気持ちい…？」

美優はもう意識が朦朧としていた。

男はあきたのか、そのまま美優をほったらかしにしていってしまった。

するとそこに、

「大丈夫？」

と誰かがきた。

見覚えのある顔！

同じクラスの飯塚 勇「イイズカ・イサム」だった。

「い、いさむううえくん！」「とりあえず服きよ！」

そういつてボロボロになったブラウスをさしだした。

スカートは無事だった。

「ほら…」

そういつて勇のジャンバーをさしだした。

「ありがとお」

無理して笑顔をつくった。

すると勇はぎゅっと抱きしめてくれた。

「泣きたいときは泣けよ！俺がいるから…」

「うん…いさむう…あなたがいてよかったよお…ふえーん」

「子供みて」

そういつて勇は笑顔で頭を撫でてくれた。

「ありがとっ…元気でたよ」

「よかった！明日から学校これるか？」

「う、うん…」

「あんま、無理すんなよ」

次の日

わたしはちゃんと学校にいった。

「あ、きたきた！美優、おはよ！」

「うん、おはよ！昨日はありがとね？」

「うん、全然OK！」

「あはは、勇はやさしいね！」

「え…俺が？」

「うんっ」

「照れる…」

その時の勇の顔がホントに可愛くて、思わずキスしたくなった。

「それじゃ！鞆用意しないとだから！」

「ン、OK」

机に向かって用意をしていると、美紀がきた。

「美優おっはよお」

私は美紀をみて泣きたくなった。

涙目になると、

「ちよっ、どうしたの？美紀何かした？」

首を横に振る。

そして、「放課後にはなすね！」

「うん…」

その日、勇はかなり気をつかってくれた。

私は聞いてみた。

「勇ってさ、彼女いるの？」

「ンー、前はいたけどもう別れたよ？」

「そっかあ」

「うん、美優は彼氏いるの？」

「ううん、いない」

「ほお、で、今日おくってごうか？」

「ン、大丈夫！今日は美紀と帰るから！」

「そか！」

「うん！」

放課後

「美紀い〜！」

「あ、美優！話して何〜？」

「ここじゃ人いるし…あそこのカフェいこ？」

「OK」

私は紅茶を頼んだ。

「で、どうしたの？」

「実は…」

昨日のことを話した。

「え…美優にそんなことがあったの？」

美紀は完全に泣いてる。

「うん…」

「ゴメン。あたしのせいだ。ごめんなさいっ」

「やだなあ〜誰も美紀のせいなんて言ってないよ！

「美優、ごめんね、つらかったよね、アタシのせいだよ…」

「美紀、誰も美紀のせいなんて言ってないよ！」

「でも…」

「あたしは、美紀がまきこまれなくてよかったって、思ってるよ。」

「美優…あんたはどこまで優しいのよお…」

あたしは、美紀のあたまを撫でた。

ありがとう。

美紀。

美紀大好き。

こんな心配してくれるなんて…

「美紀、泣かないでよ。美紀が悪いんじゃないでしょうっ。」

「でもっ、アタシのせい…だよお…」

「美紀、今日はもう帰ろう。美紀のせいじゃないよ」

美紀は、ホント？

って顔でみつめてきた。

あたしは頷いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2947b/>

そして、君は空になった

2010年12月19日02時10分発行